

事業報告書

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 31 日

I. 事業活動に関する事項

[主催事業]

1. KAWASAKI しんゆり映画祭

■第 29 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2023 (本祭)

期日：2023 年 10 月 28 日 (土)、29 日 (日)、11 月 2 日 (木)～5 日 (日)

場所：川崎市アートセンター アルテリオ映像館・アルテリオ小劇場

□ 本祭実施概要

- 主 催 NPO 法人 KAWASAKI アーツ
- 理 事 長 藤田朝也
- 企画・運営 NPO 法人 KAWASAKI アーツ・KAWASAKI しんゆり映画祭実行委員会
- 委 員 長 岡村浩志
- 共 催 川崎市 川崎市アートセンター 川崎新都心街づくり財団 川崎市教育委員会
- 特別 後援 日本映画大学 昭和音楽大学
- 後 援 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり
麻生区文化協会
- 協賛・協力 新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 小田急電鉄株式会社
ホテルモリノ新百合丘 新百合丘農住都市開発株式会社 川崎信用金庫
株式会社川崎フロンターレ 株式会社エーイーティー 新百合ヶ丘エルミロード
有限会社柿生恒産 株式会社カジノヤ 川崎商工会議所 河津造園土木株式会社
新百合ヶ丘商店会 セレサ川崎農業協同組合 三井ホーム株式会社 オーヴ株式会社
陸前高田地域振興株式会社 カンガルー チャンキー・チャンキー Ti-da Bar
パティスリーエチエンヌ Dining 旬 しんゆり会計 わかみや 石綿商店
株式会社北島工務店 株式会社エリアブレイン イオンシネマ新百合ヶ丘
イオンスタイル新百合ヶ丘 シネマ・チュプキ・タバタ
- 期 間 2023 年 10 月 28 日 (土)、29 日 (日)、11 月 2 日 (木)～5 日 (日)
- 会 場 川崎市アートセンター・映像館 (113 席)、小劇場 (195 席)
- 上映作品数 13 作品 ●登壇 10 名 ●総入場者数 1696 名 (本祭) ●ボランティア 53 名
- リーフレットキャッチコピー 「この映画たちがあなたと出会えますように」

●上映作品と企画枠

- 【阪元裕吾監督から目を離すな！】 「ベイビーわるきゅーれ」 「ベイビーわるきゅーれ2 ベイビー」
【川崎ゆかりの映画】 「陸軍登戸研究所」 「喜劇 駅前団地」
【忘れられない日本人】 「劇場版 荒野に希望の灯をともし」
【発掘感ある世界の秀作】 「オリ・マキの人生で最も幸せな日」 「セールス・ガールの考現学」
【戦争・記録・記憶】 「ペルシャン・レッスン 戦場の教室」
【新たな技術と犯罪の境界線】 「Winny」
【あの夏の残像】 「aftersun／アフターサン」
【彼女たちの生き方】 「ケイコ 目を澄ませて」 「そばかす」
【しんゆりこどもシアター】 「ソング・オブ・ザ・シー 海のうた」 (日本語吹替・日本語字幕)
[しんゆりバリアフリーシアター]
・副音声イヤホンガイド付き作品…「そばかす」
・バリアフリー日本語字幕付き作品…「劇場版 荒野に希望の灯をともし」 「ケイコ 目を澄ませて」
「ベイビーわるきゅーれ」 「ベイビーわるきゅーれ2 ベイビー」
・バリアフリー鑑賞アプリ対応作品…「劇場版 荒野に希望の灯をともし」 「ケイコ 目を澄ませて」
・保育付きサービス対象作品…「aftersun／アフターサン」 「そばかす」

合計 13 作品

トークイベント登壇者 (敬称略、順不同)

- 〈登壇〉 阪元裕吾 (監督) 園村健介 (アクション監督) 藤田直哉 (批評家・日本映画大学准教授)
谷津賢二 (監督) 大澤真幸 (社会学者) 戸田真琴 (文筆家・映画監督)
渋谷哲也 (ドイツ映画研究・日本大学文理学部教授) 松本優作 (監督) 玉田真也 (監督)
〈オンライン登壇〉 東出昌大 (俳優)

合計 10 名

動員数データ チケット売上枚数 1535 枚 招待 161 名 観客動員数 1696 名
有料プログラム数 13 プログラム (13 作品) 合計上映回数 24 回

映画祭のテーマ「映画とともに まちとともに」のもと、2023 年度は「この映画たちがあなたと出会えますように」をキャッチコピーに、新進気鋭の監督特集から川崎市ゆかりの作品、ドキュメンタリー、アニメーションまで幅広いラインナップの計 13 作品の上映を行った。期間を 10 月 28 日 (土)、29 日 (日)、11 月 2 日 (木) ~5 日 (日) の 6 日間、計 24 回の上映を行い、1696 名のお客様にご来場いただいた。「劇場版 荒野に希望の灯をともし」の両日、「喜劇 駅前団地」「陸軍登戸研究所」の上映回が満席となった。

監督や俳優、有識者をお呼びしてのゲストトークは、今年も多くのご登壇者にご協力をいただいたほか、作品推薦スタッフと来場者との懇話イベントという新しい試みも行い、映画を通して観客同士の交流の場を作ることができた。

外部イベント出店時に多くのお客様にご参加いただいた「シネマウマ塗り絵」やアンケートを、本祭会場の装飾として使用させていただき、「KAWASAKI しんゆり映画祭」を通して「映像のまち・かわさき」に参

加していただける施策を行った。そのほか、開催期間中の会場3階では、新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見送っていた出店スペースを再開し、地元店舗や社会福祉団体で作られた雑貨や焼き菓子（出店：夢屋/布製品、衣類、あゆ工房/焼き菓子、菌屋/おむすびセット、彩紅茶/タピオカミルクティー）などの販売を行うことができた。このようにコロナ禍のなかでも繋いできた街や市民との交流を、「映画祭」という場を通して提供できた年となった。



■ オープニング理事長挨拶
手話通訳付き



■ 谷津監督 (10/28)



■ 大澤真幸氏 (11/5)

「劇場版 荒野に希望の灯をともし」



■ 阪元監督、園村アクション監督
「ベイビーわるきゅーれ2 ベイビー」



■ 戸田真琴氏
「セールス・ガールの考現学」



■ 藤田直哉氏
「喜劇 駅前団地」



■ 松本監督・東出昌大氏 (オンライン)
「Winny」



■ 玉田監督
「そばかす」



■ 三浦透子氏 (ビデオメッセージ)



■ 出店の様子 (夢屋)



■ 塗り絵の展示



■ 来場者とスタッフの懇話イベント

□ バリアフリーシアターの実施

映画祭で27年継続して取り組んでいる「バリアフリーシアター」は、だれもが参加しやすい映画祭を目指し、活動を行っている。

2023年は、視覚障がい者向けの独自のサービスとして、「そばかす」に対して副音声ガイドを作成して上映を行った。新百合ヶ丘駅からの送迎サービスも行い、7組14名の利用者に作品をお届けすることができた。今年度も駅から会場までの送迎対応が行えるスタッフを増やすための研修にも取り組んだ。

今年度はバリアフリー日本語字幕付き上映に関して、聴覚障がい者へのアンケートとヒアリングを行い、サービスのあり方の再点検を行った。ヒアリングの結果、スクリーンへの字幕投射を求める声が多いことが分かり、4作品のバリアフリー字幕付き上映を行った。「ベイビーわるきゅーれ」「ベイビーわるきゅーれ2ベイビー」では、日本初のユニバーサルシアターの「シネマ・チュプキ・タバタ」から提供を受けた字幕データを使用させていただき、今後もサービスの充実に向けて連携をしていきたい。また、バリアフリー日本語字幕ではなく洋画の字幕での映画鑑賞を行っている方も多くいらっしゃる事が分かり、洋画でのイベント時も手話要約筆記受付の対象とした。「劇場版 荒野に希望の灯をともし」イベント時に手話通訳の実施行い、希望者へのサービスを提供することができた。字幕での上映対象作品の開場時には文字案内の掲示のほか、手話での案内動画のロビーでの上映と、スタッフによる筆談対応も行った。

保育付き上映に関して、新型コロナウイルス感染症対策のため昨年度まで実施を見送っていたが、今年度はサービスの申込受付を再開した。（今年度の利用申し込みはなかった）

また昨年度から運用を始めた親子観劇室の利用や、子ども向けチラシの作成を継続して行った。だれもが参加しやすい映画祭へつながる重要な試みとして、引き続き取り組んでいきたい。



■ジュニア映画制作ワークショップ 協賛：小田急電鉄株式会社

内容：「みんな集まれ、映画制作をはじめよう！」

期間：2023年12月2日（土）・3日（日）：1組目 /9日（土）・10日（日）：2組目

2023年12月17日（日）両日程合わせての発表会

場所：川崎市アートセンター/新百合交流空間リリオス/新百合21ホール

講師：三澤拓哉（映画監督、風像代表）

参加者数：1組目6名、2組目9名 計15名

川崎市とその周辺に在住・在学している中学生を対象とした映画制作ワークショップ。

2023年は、短編映画のグループ制作を実施。講師には、2018年に当映画祭で作品を上映させていただいたご縁で、日本映画大学出身の三澤拓哉監督をお招きした。役割分担（監督、助監督、撮影、録音、俳優）を決め、意見を出し合いながら、シナリオ制作し、プロも使用する機材で協力しながら撮影を進めた。12月17日（日）には、川崎市アートセンター・アルテリオ映像館で、保護者や関係者を招いた作品発表会を実施した。完成作品の上映のほか、参加者による舞台挨拶、別のグループや観客とのQ&A、講師からの講評を行った。

参加者からは、「普段できない体験ができた」「撮影機材の扱い方やコツ、撮影の工夫を知れてよかった」「撮影や編集の技術を知れて嬉しい」「映画制作の裏を知れてよかった」「協力して1つのものをつくる良さを知った」「友達ができて嬉しかった」などの感想が集まり、「また参加したい」といった声が多く集まった。広報として10月下旬より川崎市教育委員会の協力による市内公立中学生への参加募集チラシ配布および、映画祭のHPやSNSでの発信などを行った。



■ジュニア映画制作ワークショップの様子

■なつやすみ野外上映会 麻生区地域課題対応事業

期日：2023年8月26日（土） 場所：川崎市立王禅寺中央中学校 校庭

参加者数：294名（延べ来場者数）

2000年から開催してきた野外上映会を、川崎市立王禅寺中央中学校で実施した。広報活動は、麻生区のホームページ、KAWASAKI しんゆり映画祭のホームページやSNSでの発信のほか、タウン誌への掲載、区内施設へのチラシ配布等を7月上旬より展開した。

今年度の上映会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、昨年度に引き続き、事前申込制で来場者の募集を行った。また、例年では雨天時は体育館で実施していたが、体育館の改修工事のため、雨天・荒天中止とする体制で行った。客席はブロック指定と座席指定制として、スクリーン前方にシート席（5.3m×5.3mのブルーシートでブロック分けを行い、横4ブロック×縦3ブロックの計12ブロックを設置）、シート席後方には椅子席を配置した。

来場希望者は麻生区ホームページの専用フォームで申し込みを行い（申込締切は7月31日までとした）、通知はハガキの郵送によって行った。

イベント内容は、17時開場で、18時30分から映画祭実行委員長挨拶、区長挨拶、議員紹介に続き、昨年度のジュニア映画制作ワークショップ「みんなでストップモーションアニメーションをつくろう」制作作品の上映を行い、受講生4名の登壇も行った。その後、『シチリアを征服したクマ王国の物語』を上映し、20時20分に終了した。翌日、校庭の原状復帰と清掃を行った。その後、周辺からの苦情の報告もなくイベントは終了した。

開催にあたっては、新百合ヶ丘自治会・王禅寺町内会・新百合ヶ丘第5自治会および、スクリーン用足場の設置をいただいている北島工務店の協力があり、地域とのつながりや協力で支えられてイベントは実施された。

今年度は4年ぶりに屋台出店・ゲームコーナーの設置を実施することができ、飲食販売3ブース、ワークショップ1ブースが出店した。上映後の来場者の声として、「気温、湿度、風、気候、雰囲気といい、最高の状態だった」「外で見ると、開放感があり良かった」などが寄せられ、ほか感想ハガキも寄せられた。



■ 座席レイアウト



■ ウェルカムボード



■ 配布物



■ 会場入口の様子



■ 上映前の会場の様子



■ 上映前イベントの様子



■ 上映時の様子



■ 屋台の様子



■ ワークショップブースの様子

<ボランティアスタッフの活動>

■ ボランティア全体会

期間：2023年4月～2024年3月 会場：川崎市アートセンター ほか

内容：映画祭事業の連絡、各セクションの活動報告・打合せ、ボランティア交流

ボランティア全体が集まる全体会を1か月に1回程度実施した。2023年度は毎月上旬の土曜日を中心に開催した。映画祭実行委員会で協議された情報の共有や軽作業（ダイレクトメール発送準備など）も行った。昨年度に引き続き、オンライン会議室システムを併用して行った。

2023年度の開催日は4/8、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9、10/14、11/11、12/16、1/13、2/3、3/9。

■ ボランティアスタッフ研修

期日：2023年10月21日（土） 会場：川崎市アートセンター（小劇場・映像館）

内容：ボランティア研修 ～施設利用ガイダンス

映画祭のメイン会場である川崎市アートセンターの職員の協力により、施設の特徴や利用方法についての研修を行った。川崎市アートセンターの映像館と小劇場の2つの会場で実施していくにあたって、注意点が異なることもあり、各劇場を実際に見ながら、使用方法、避難経路の確認、設備の特徴の確認を行った。接

客のポイント、災害時の対応など多岐にわたる研修は、新規のスタッフはもちろん長年映画祭のスタッフを務めてきたメンバーも改めて再確認を行う場となり、本番前に欠かせないものとなっている。



■劇場内での研修



■コラボレーションスペースでの研修

■ ボランティアスタッフ勉強会

実施日：2023年6月4日（土）、2024年3月9日（土）

会場：新百合21ホール 第1会議室、第2会議室

2023年6月4日には、映像プロダクションに勤務する映画祭スタッフを講師として「映画制作の役割などについて」というテーマで講義を行った。映画祭で上映する「映画」には、多くの制作会社や配給会社やスタッフなどがそれぞれの役割で関わっていることを知ることで、上映活動および中学生向けのワークショップに臨む姿勢の醸成を目指した。



2024年3月9日には、2020年度に配信を行った「連続 ONLINE 公開講座」を視聴する機会を事前に設け、勉強会当日には映画祭を運営・継続していくために大切にしていけるべきことや必要なことを話し合う場とした。

■ 令和6年度ボランティアスタッフ募集説明会

会場参加説明会：2024年2月17日（土） 会場：川崎市アートセンター

オンライン説明会（録画）：2024年2月18日（日）～3月3日（日）

新規ボランティアスタッフ募集説明会を上記日程で実施した。昨年から引き続き、1年間を通して参加できるスタッフを募集し、次年度のスタッフ募集を今年度内で行うことで、活動開始時期の早期化を図った。会場での参加と合わせて、説明会の内容を収録し、参加希望者への配信を行った。ボランティアスタッフ募集の告知方法は例年どおり、市内公共施設へのチラシ配布、市政だより、映画祭ホームページ等で行った。

2023年度は53名での活動となった（映画祭スタッフの活動期間は、4月～翌年3月）。ボランティアスタッフは、プログラム（経験2年以上）、バリアフリー上映、ジュニア映画制作ワークショップ、総務、地域連携、HP・SNS・記録、リーフレットの各セクションに分かれて活動を行った。

■ ボランティアスタッフ個別面談

令和5年既存スタッフ向け

2024年1月20日（土）～21日（日） 会場：新百合21ホール・事務局

令和6年度新規スタッフ向け

2024年3月22日（土）～23日（日） 会場：新百合21ホール・事務局

既存スタッフに対しては継続意向の有無および活動中の感想や改善希望などのヒアリングの場として、新規スタッフ希望者に対しては映画祭での活動内容を説明し、参加動機と沿わない部分がないかの確認の場としたほか、映画祭からは活動時の注意事項や問題発生時の対応方法などの説明を行った。

<関係等との連携>

■ 共催・特別後援・後援団体との合同連絡会

今年度も川崎市、川崎市アートセンター（川崎市文化財団グループ）、川崎市教育委員会、（一財）川崎新都心街づくり財団、日本映画大学、昭和音楽大学、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり、麻生区文化協会へ声かけを行い、合同連絡会を実施した。7月18日には各映画祭事業の概要の共有を行い、意見交換を行った。10月25日には本祭での上映予定作品を含めた詳細を共有し、意見交換を行った。本祭およびジュニア映画制作ワークショップ終了後、1月16日には映画祭事業等の実施内容の報告や次年度に向けての意見交換を行った。

■ 地域イベント等への参加・連携

毎年参加をしている「しんゆりフェスティバル・マルシェ」や「あさお区民まつり」のほか、地域で開催されるイベントに参加し、街との「映画」を通じた交流へ注力することができた年となった。

イベント参加時には映像の仕組みを塗り絵で紹介する市民スタッフ考案の「ソーマトロープうちわ」体験のほか、映画祭公式キャラクター「シネマウマ」の塗り絵や「好きな映画監督・映像作家アンケート」を実施した。イベント来場者からいただいた塗り絵やアンケートを、本祭の会場装飾に使用させていただく「街」と「映画祭」をつなぐ施策を行った。今後も多くの市民に「映画祭」を通して「映像のまち・かわさき」に参加していただける施策を行っていきたい。

また今年度も「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」のコミュニティ会員として地域での活動や交流に参加させていただき、様々な気づきやアイデアを得る機会となった。



【地域イベントの参加報告】

6/17（土）ひのきやま PARK 主催：川崎市（ソーマトロープうちわワークショップ）参加者 78 名

9/16（土）あさお子育てフェスタ 主催：麻生区役所（シネマウマぬりえ）*約 100 名

9/30（土）麻生区ふれあい公園・Vege&ArtFes 主催：川崎市主催（チラシ配布）

10/7（土）～8（日）しんゆりフェスティバル・マルシェ

主催：新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム（前売券先行販売、アンケート実施）

10/8（日）あさお区民まつり

主催：あさお区民まつり実行委員会（シネマウマぬりえ、アンケート実施）約 100 名

11/14（火）つながる×つなげる～芸術+ひと+まち～ 第2回

主催：川崎市アートセンター（実行委員長がパネラーとして登壇）

12/3（日）カフェグランデあさお

主催：NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり、川崎市麻生区役所（展示）約 330 人

・「新百合ヶ丘南口クリーンアップ大作戦」と、「グリーンバード新百合ヶ丘チーム」の新百合ヶ丘駅周辺の清掃活動に参加。活動を通じて、地域の方々との交流の輪を広げることができた。

<活動の詳細>

■ 4月～8月 プログラム選定

2016年より「スタッフ内から作品案を募り、投票して上映作品・企画を検討する」という方法を取り入れて8年目となった。プログラムセッションでの継続企画の作品選定や調整等を4月～8月まで定期的に会議を実施し、確定させた。



■ 8月～10月 広報宣伝物、WEB ページ等の作成

プログラム決定を受け、チラシの制作やホームページの更新等を行い、Facebook、X (旧 twitter)、インスタグラムを通して情報を発信した。

チラシはA4サイズ12ページ仕様で作成、上映作品情報に加えて、聴覚障がい者へのヒアリングの紹介やジュニア映画制作ワークショップの情報なども紹介する内容となった。文字サイズを大きくしてほしいという来場者からの要望を受けて、紙面レイアウトなどの工夫も行った。イベントや、まちの清掃活動を行っている団体の紹介も行い、新百合ヶ丘という街の持つ魅力や集う人々の活動を発信することができた。



今年度の表紙イラストは映画祭スタッフで制作し、映画と観客とのつながりを表現したデザインとした。

■ 9月～11月 広報活動

映画祭がスタートした1995年から実施している駅前でのポスター展を今年も実施した。また、川崎市の協力による川崎アゼリア広報コーナーでの展示、麻生区の協力による駅前のバスターミナルの柱巻広告も実施した。小田急電鉄の協力による駅構内への映画祭ポスターの掲示、川崎市アートセンターでの予告編上映など、効果が期待できる広報を中心に展開された。



■ ペDESTリアンデッキ
新百合ヶ丘駅南口



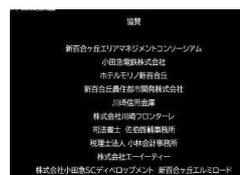
■ バスロータリー
柱巻き広告



■ 新百合ヶ丘駅内での
ポスターとのぼり掲示



■ 麻生図書館での
関連図書コーナー



■ アルテリオ映像館での
予告編上映

<広報協力>

チラシ配布) 関係各団体・企業、情報プラザ経由での公共施設、各映画館、イベント等
川崎市) 川崎アゼリア地下街の広報コーナーでのポスター掲示、市政だより掲載、公共施設への配架
川崎市アートセンター) 上映作品の予告編集上映、ポスター掲示、チラシやPOPの設置
麻生区) バスターミナル柱巻き広告の設置、区役所ロビーでの三角柱設置
小田急電鉄株式会社) 新百合ヶ丘駅構内のノボリ、ポスター、専用ラック設置、近隣駅へのポスター掲示
川崎市教育委員会) 子ども向けチラシの麻生区内小学校への配布
麻生図書館) 映画祭関連図書コーナーの設置、ポスター展示
イオンシネマ新百合ヶ丘) 専用ラックでのチラシ設置
メールマガジンでの紹介) 川崎市アートセンター、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、
新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム
記事掲載) マイタウン、タウンニュース、読売新聞、東京新聞、朝日新聞、赤旗日曜版、
ロコっち新百合ヶ丘、都市問題
ラジオ紹介) かわさきFM 狛江エフエム

■今年度の総括と来年度への取組み

2023年度の本祭では川崎市アートセンター映像館・小劇場を会場に、2023年10月28日（土）、29日（日）、11月2日（木）～5日（日）の6日間の開催で、プログラム数13作品で計24回の上映を行い、1696人のお客様にご来場いただいた。ご回答をいただいた来場者アンケートは967件になり、89.9%のお客様から「非常によかった」「よかった」の評価をいただいた。単体上映回では「劇場版 荒野に希望の灯をともし」「陸軍登戸研究所」「喜劇 駅前団地」が満員を記録した。今年度は10名のご登壇者をお呼びしたほか、スタッフと来場者の懇話イベントを行った。今後も市民らしい発想と視点で、作品上映と共にイベントを企画していきたい。

バリアフリーシアターでは、「そばかす」に対して独自にガイドを制作し、視覚障がい者向け副音声イヤホンガイド付き上映を行った。聴覚障がい者向け日本語字幕付き上映を4作品で行った。また、聴覚障がい者へのヒアリング等を実施し、利用しやすいサービスのアイデアや視点を得ることができた。

本祭では、ゲストトークを会場のスクリーンに映して行うオンライン登壇で、来場が難しいゲストの登壇が実現した。コロナ禍を経て、新たな登壇形式として今後も続けていきたい。日本映画大学の調査協力により、今年の上映作品のうち3作品に日本映画大学（日本映画学校）出身者が関わっていることが分かり、会場での掲示を行った。新百合ヶ丘から「映画」の新しい担い手が育まれていることを周知したいと企画し、新百合ヶ丘ならではの取組みとなっている。

今年度も地域のイベントや清掃作業へ積極的に参加することで、街や人との繋がりを持つことができた。映画祭開催期間中の川崎市アートセンター3階・コラボレーションスペースでは、新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見送っていた出店を再開した。コロナ禍のなかでも繋いできた街や市民との交流を、「映画祭」という場を通して提供できた年となった。今後も「映画」や「映画祭」を通して、地域や市民活動とつながる企画を行い、地域の特色と強みを活かした映画祭を目指していきたい。

「なつやすみ野外上映会」では、王禅寺中央中学校の校庭で「シチリアを征服したクマ王国の物語」を上映した。コロナ禍の影響が緩和された状況を踏まえ、定員を420名に拡大した。飲食販売を再開し、地元住民や福祉施設など3軒が出店した。上映前イベントでは「ジュニア映画制作ワークショップ」で昨年度に制作したコマ撮りアニメーションの上映と、中学生へのインタビューも行った。

「ジュニア映画制作ワークショップ」では、「みんな集まれ、映画制作をはじめよう！」と題して、4年ぶりの実写映画制作を行った。今回は、受講生の参加のしやすさを考え、ワークショップ2日間、発表会1日という3日間の日程とした。実際に集まったの映像制作の現場は、参加生徒同士のコミュニケーションと、個性を活かして活躍していく場となった。保護者や関係者を招いた完成披露試写を川崎市アートセンター・映像館で行い、見せるところまで行うことの重要性を再認識する機会となった。

スタッフ向けの勉強会として、映像プロダクションに勤める映画祭スタッフを講師として「映画制作の役割などについて」というテーマで講義を行った。映画祭で上映する「映画」には、制作会社や配給会社、多くのスタッフなどがそれぞれの役割で関わっていることを知ることで、上映活動および中学生向けのワークショップに臨む姿勢の醸成を目指した。3月には2020年度に収録配信を行った「連続 ONLINE 公開講座」を視聴する機会を全スタッフに提供し、映画祭の運営や課題などについて活発な意見交換を行った。今後も映画祭スタッフの学びや意見交換の場を積極的に設け、新しいスタッフにも経験を引き継いでいけるような機会としていきたい。

2023年度の市民スタッフは53名で、高校生から70代まで幅広い年代が映画祭に参加した。15名の新規スタッフが参加した年となり、作業スケジュールの遅延や、当日の運営スタッフ人数の確保に関しては、改善の道筋が見えてきた。今後も引き続き、多くの新しいスタッフを迎えながら、組織として継続した目標の共有と、ノウハウの継承も意識的に行っていきたい。

[企画・制作事業]

1. バリアフリーシアター制作事業

1997年より活動している「バリアフリーシアター制作事業」は2023年で27年目を迎えた。

(1) 視覚障がい者向けの音声ガイド制作

川崎市アートセンターからの委託4作品および当NPO主催事業しんゆり映画祭の1作品に対して音声ガイド台本を作り、外国語のセリフは日本語吹替を行い、副音声ガイド台本は朗読してCDに録音した。

- 【1】『青いカフタンの仕立て屋』
- 【2】『そばかす』（しんゆり映画祭上映作品）
- 【3】『私はモーリーン・カーニー、正義を殺すのは誰？』
- 【4】『幾春かけて老いゆかん』
- 【5】『シェアの法則』

(2) 「つながる×つなげる～芸術+ひと+まち～」第4回（オープン講座）での登壇

川崎市アートセンター主催の連続講座「つながる×つなげる～芸術+ひと+まち～」の第4回（オープン講座）に、バリアフリーシアター制作チームの2名が講師として登壇した。

ジャン・ルノワール監督の『どん底 4K レストア版』に対して当法人が制作した視覚障がい者向けの音声ガイド付きでの上映が行われ、ガイド制作の舞台裏やバリアフリー上映について、説明を行った。

2. 劇団わが町

アートセンター創設時より、ふじたあさやを中心に企画した市民のための市民による新百合ヶ丘の市民劇団。2012年6月に生まれたゆるやかな劇団。劇団員は地域住民の方々を中心に構成されている。年齢制限はなく、前回公演時、総勢49名10～82歳までのメンバーが所属。しんゆりシアターのラインナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっている。

■しんゆりシアター 劇団わが町

第13回公演「あしもとのいずみ」

開催期間：2023年12月1日（金）～3日（日）全5回公演

会場：川崎市アートセンター アルテリオ小劇場



■公演フライヤー ■作品場面写真



■作品場面写真



■作品場面写真

2023年度、市民劇団・劇団わが町の第13回公演は、30余年前の川崎市と伊那谷地区（長野県）の高校生らによる「陸軍登戸研究所掘り起こし運動」に着想を得たオリジナル作品を劇団員による脚本、ふじたあさや（劇団わが町芸術監督）による潤色・演出で上演した。

地元川崎市多摩区、小田急線生田駅からすぐの明治大学生田キャンパス内に、78年前まで使用されていた陸軍登戸研究所の遺構や、研究所の疎開先の長野まで継続的な取材を続けた劇団員が、“現代の高校生が市民とともに登戸研究所を題材に演劇をつくる”というメタ構造の脚本を書き上げた。

現実に戦火の続く現代を生きる中で、市民劇団がこの題材を扱うことに対して、小学生から80年代まで様々な年齢・立場・経験の団員たちが、それぞれに取材や勉強を重ね、今までにない責任感と覚悟の元、テーマと向き合い、対話を重ね、今現代の事・自分事として来場者にメッセージを届けるこれまでにない気概に満ちた舞台となった。

チケットは全公演完売、舞台を鑑賞した来場者にも大変好評で、再演希望の声も多数あった。

劇団わが町が2012年から継続して続けてきた活動が、単に市民の交流や発表の場にとどまらず、舞台づくりを通して、何を地域や市民に共有し、伝えていくのかを深く考え、どう具現化するのかという、新たなフェーズに入り、他にも類を見ない市民活動に成長してきているといった評価も出てきている。

当法人は、例年と同様、本公演の企画・制作を担った。

3. 朗読と歌によるこんさあと いのちかけて

約120年前、大正時代末期から昭和初期 女性の表現活動が世に出ることが困難だった時代に、

日本文学史上に大きな足跡を残し夭逝した3人の女性、知里幸恵、金子みすゞ、金田千鶴の人生と作品を朗読と歌で届ける舞台を、KAWASAKI アーツの主催公演として開催した。

作・構成・演出は、これまでも上記3人の女性に関する舞台を描いてきたふじたあさや氏。作曲・ピアノ演奏・歌に、過去多くの文学史に残る詩や短歌に曲をつけてきた吉岡しげ美氏。この二人がタッグを組みちょうど金子みすゞの命日となる日に上演した。

更に出演者としては、劇団民藝の俳優今野鶏三氏と加來梨夏子氏に出演いただき、更にふじたが長野と新百合ヶ丘それぞれの地に芸術の種を撒いてきた市民劇団の演劇集団「演劇宿」と劇団わが町それぞれから有志を募り、プロと市民、歌と朗読と芝居、それぞれが様々に融合する新しい挑戦をした舞台となった。

昼公演は完売、夜公演も多くの方に来場いただき、再演を希望される等、大変好評のうちに幕を閉じることができた。

KAWASAKI アーツとしては、これまでの名義主催公演や、映画祭事業とはまた異なる事業として、

これまで結んできた多くのご縁のある団体やスタッフの多大な協力を得て、公演を成功させることができた。

公演名：朗読と歌によるこんさあと いのちかけて

いのちかけて未来を生きた三人の墓碑銘 ～知里幸恵 金子みすゞ 金田千鶴～

作・構成・演出：ふじたあさや 作曲・演奏（ピアノ）・歌：吉岡しげ美

出演：加來梨夏子・今野鷄三（劇団民藝）、劇団わが町、演劇集団「演劇宿」

開催期間：：2024年3月10日（日）13時／17時（全2回公演）

会場：川崎市アートセンター アルテリオ小劇場

料金：一般 4000 円 学生 2500 円 小学生 1500 円 障害者割引 3500 円（自由席・税込）



■公演フライヤー

■作品場面写真

■作品場面写真



■作品場面写真

■作品場面写真

■作品場面写真

[委託事業]

本年度は、なし

II 運営組織の状況に関する事項

1. 組織運営

法人理事会では、メーリングリストを使用した情報共有、承認事項や、報告および連絡の円滑化

を図った。

今年度の映画祭の運営も、登録スタッフの中から立候補と投票で選出された実行委員長と実行委員とで、映画祭実行委員会を立ちあげた。2023年度は、昨年引き続き、市民ボランティアスタッフが実行委員長に就き、映画祭は、法人理事会の承認を得ながら、企画・運営を行った。実行委員会は、毎月実施した。

映画祭事業の進捗および情報の共有のため昨年に引き続き、共催・特別後援・後援含む関係団体との合同連絡会として、3回実施した。

また、財源確保対策部会準備会で2020年に作成した「KAWASAKI しんゆり映画祭・財政対策アクションプラン」をもとに、進捗の管理・確認等を行った。

2. 事務局運営

事務局は、法人事務局として年間を通じて1名、映画祭事務局として5月～翌1月の9カ月間（1～5月は週3日程度）1名を加えて運営された。

3. 事業展開

2023年度は、映画祭事業の他の文化事業として、バリアフリー副音声日本語吹替え制作、劇団わが町公演の企画・制作、「朗読と歌によるこんさあと いのちかけて」公演の主催・企画・制作を行った。

3. 役員

役員の名氏及び職制上の地位

地位／氏名／専門

理事長／藤田朝也／演劇・ミュージカル

理事／黒田隆／音楽

理事／千葉茂樹／映画・映画祭

理事／森正敏／演劇

理事／岩倉宏司／宣伝・広報

理事／大谷賢治郎／演劇

理事／平松多一／演劇・映画祭

理事／岡村浩志／映画祭

監事／白鳥あかね／映画・映画祭

シニア・アドバイザー／下八川共祐／昭和音楽大学理事長

シニア・アドバイザー／岩崎敬／環境デザイナー

以上

貸借対照表

令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目		金額	
I	資産の部		
	1. 流動資産		
	現金預金	6,723,897	
	未収金	420,000	
	流動資産合計		7,143,897
	2. 固定資産		
	(1) 有形固定資産		
	車両運搬具	0	
	什器備品	0	
	その他の有形固定資産	0	
	有形固定資産計	0	
	(2) 無形固定資産		
	ソフトウェア	0	
	無形固定資産計	0	
	(3) 投資その他の資産		
	敷金	0	
	投資その他の資産計	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		7,143,897
II	負債の部		
	1. 流動負債		
	未払金	0	
	前受民間助成金		
	短期借入金	3,044,918	
	未払費用	200,000	
	未払法人税等	70,000	
	預り金	37,290	
	仮受金	23,860	
	流動負債合計		3,376,068
	2. 固定負債		
	長期借入金	0	
	退職給付引当金	0	
	固定負債合計		0
	負債合計		3,376,068
III	正味財産の部		
	前期繰越正味財産		4,614,790
	当期正味財産増減額		-846,961
	正味財産合計		3,767,829
	負債及び正味財産合計		7,143,897

活動計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
会員受取会費	50,000	50,000
2. 受取寄附金・協賛金		
受取寄附金	253,000	
受取協賛金	155,000	408,000
3. 受取助成金・委託金等		
川崎市負担金	6,000,000	
日本芸術文化振興助成金	1,200,000	
麻生区地域振興課 区委託金	995,650	
文化財団委託金	275,000	
その他助成金・委託金	0	8,470,650
4. 事業収益		
①芸術文化を通じたまちづくり事業収益(映画祭事業)		
チケット販売物販収益	1,993,200	
広告収益	835,000	
ジュニア参加費	75,000	
その他収益	28,400	
②文化芸術振興事業収益		
バリアフリー委託費(文化財団)	1,380,000	
映画製作費収益	0	
その他収益	0	4,311,600
5. その他収益		
受取利息	65	
雑収益	120,578	
借入金債務免除益	0	120,643
経常収益計		13,360,893
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	4,779,600	
福利厚生費	191,658	
雑給	0	
謝礼	0	
人件費計	4,971,258	
(2) その他経費		
フィルム仕入	1,491,062	
その他仕入	100,540	
広告宣伝費	1,093,120	
リース料	366,399	
地代家賃	1,814,518	
事務用消耗品費	248,043	
通信交通費	825,658	
外注費	1,326,883	
交際費	58,482	
保険料	43,380	
備品消耗品費	176,917	
管理諸費	255,750	
会議費	334,162	
謝礼	65,000	
租税公課	6,400	
諸会費	14,000	
支払手数料	10,080	
印刷費	238,704	
雑費	697,498	
その他経費計	9,166,596	
事業費計		14,137,854
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
.....		
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	0	
.....		
その他経費計	0	
管理費計		0
経常費用計		14,137,854
当期経常増減額		-776,961
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益		0
過年度損益修正益		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1. 過年度損益修正損		0
.....		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		-776,961
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		-846,961
前期繰越正味財産額		4,614,790
次期繰越正味財産額		3,767,829

※今年度はその他の事業を実施していません。

財産目録

令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ

(単位:円)

	科目	金額	
I	資産の部		
	1. 流動資産		
	現金預金	6,723,897	
	未収金	420,000	
	流動資産合計		7,143,897
	2. 固定資産		
	(1) 有形固定資産		
	車両運搬具	0	
	什器備品	0	
	その他の有形固定資産	0	
	有形固定資産計	0	
	(2) 無形固定資産		
	ソフトウェア	0	
	無形固定資産計	0	
	(3) 投資その他の資産		
	敷金	0	
	投資その他の資産計	0	
	固定資産合計		0
	資産合計		7,143,897
II	負債の部		
	1. 流動負債		
	未払金	0	
	前受民間助成金		
	短期借入金	3,044,918	
	未払費用	200,000	
	未払法人税等	70,000	
	預り金	37,290	
	仮受金	23,860	
	流動負債合計		3,376,068
	2. 固定負債		
	長期借入金	0	
	退職給付引当金	0	
	固定負債合計		0
	負債合計		3,376,068
	正味財産		3,767,829